

神奈川県立博物館自然部門資料目録第8号：  
1-66.

阿部光典氏が集めたゲンゴロウ類標本を、神奈川県立博物館自然部門へ寄贈されたものの目録である。その中に兵庫県産標本が次のごとくあるので、ここに記録しておくことにした。

カンムリセスジゲンゴロウ、ハイイロゲンゴロウ、チビゲンゴロウ、ウスイロシマゲンゴロウ、オオマルケシゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、ヒメケシゲンゴロウ、ツブゲンゴロウの8種。

159. 相坂耕作(1995) 波賀町上野地区の昆虫類。  
遊虫千年(2)：83-104.  
p.101. ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* の記録あり。

(追加)

160. 西村 登(1972) 岸田川上流の水生昆虫。  
扇ノ山周辺の自然保護：31-37。  
甲虫はヒラタドROMシだけが記録されている。

以上1995年迄に出版された兵庫県産の水棲甲虫についての文献類で、筆者の見得たもの、所有しているものを中心にとりまとめた。初めに記したごとく尚多くの関係文献の見落としや脱落があるかと思う。これらについて御教示頂くことが出来れば幸いである。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

## 兵庫県産クロヒラタヨコバイについて

高橋寿郎

最近、M.Hayashi and K.Machida 両氏により日本産クロヒラタヨコバイについての再検討論文の発表があった(1996)。それによると、従来 *Penthimiidae* 科は *Penthimia* 属1属で、3種 *P. guttula* Matsumura, 1912 チャイロヒラタヨコバイ, *P. nitida* Lethierry, 1876 クロヒラタヨコバイ, *P. theae* Matsumura, 1912 チャノヒラタヨコバイが知られていた。今回の再検討で、  
Genus *Penthimia* Germar, 1821.  
*P. nitida* Lethierry, 1876  
*P. sincipitalis* M.Hayashi et Machida, 1996.  
*P. guttula* Matsumura, 1912.  
*P. okinawana* M.Hayashi et Machida, 1996.  
Genus *Chanohirata* M.Hayashi et Machida, 1996.  
*C. theae* (Matsumura, 1912).  
と1新属を加えて2属5種(うち2新種)がいることになり、兵庫県にはそのうち2属3種を産することになる。ごく普通に見られるもの、かなり珍

しいと考えられるものがいたりするので、それら兵庫県に分布している種について簡単に説明しておきたい。

まず、*Penthimia nitida* Lethierry, 1876 クロヒラタヨコバイは、全体真黒色で強い光沢を装うが、日本各地に普通に見られる種で、松村松年博士が *Penthimia nitida* Lethierry var. *maikoensis* Matsumura, 1912 と Maiko (舞子産)で記録された種もこの種のことである(前胸背、小楯板及び前翅の黄褐色を呈するもの)。兵庫県下にも広く分布しており、多くの方々は野外で1度はお目にかかったことのある種だと考えられる(初夏から広葉樹上に普通に見られる)。分布は日本(本州、四国、九州)、朝鮮、ロシア、支那、台湾。

*Penthimia sincipitalis* M.Hayashi et Machida, 1996. この種は今回初めて新種記載されたものである(p.60-63, Figs.2,7, 18-24)。この Paratypes の中に1♀, Akazai-keikoku, Hyogo Pref.23.

VI.1984, K.Konishi (EUM-Entomological Laboratory, College of Agriculture, Ehime University, Matsuyama 保管標本)がある。

この種は、*P. nitida* Lethierry と混同されていたが一見して体長が大であり、表面光沢が鈍く頭部の前方が拡がっていることで区別出来る。日本全国に広く分布している種のようなのである。恐らく県下にも広く分布していることだと考えられる。日本(北海道, 本州, 四国, 九州)。

3番目の種は *Chanohirata theae* (Matsumura, 1912) であるが、この種は松村松年博士が台湾産標本に基づいて *Penthimia theae* Matsumura, 1912 と記載された種である。谷口(黒佐)和義博士は1939年に、神戸の摩耶山で1936年5月頃の若葉上で1頭、1936年6月本山村で雑草を sweeping して2頭得たと記録された(和名はチャヒラタオホヨコバヒを用いられている)。今回の再検討で本種をタイプに新属 *Chanohirata* を創設された。

この種については石原 保博士(1965)の"全体明るい灰褐色でやや緑色を帯び腹面は黒色、本州(神戸)と台湾より知られチャなどに寄生する"という紹介がある。しかし本州からの記録は今の所これ以外には無い。状況が変わっているが是非調べてみなくてはいけない種であると思われる。

以上兵庫県に産する3種について解説したが、まだまだ調査が不充分のように思われる。さらなる努力をしたいものである。

<参考文献>

- 林 正美(1989) 日本産昆虫類総目録 I. p.97  
(九州大学農学部昆虫学教室)
- M.Hayashi and K.Machida(1996) A Revision of the Japanese Species of the Penthimiinae (Homoptera, Cicadellidae).  
Jpn. J. syst. Ent. 2(1):55-73.
- 石原 保(1965) 原色昆虫大図鑑第3巻. (pl.63, f.1, p.125) (北隆館・東京)
- 加藤正世(1934) 分布調査報告. 昆虫界2(12):

611.

Matsumura,S.(1912) Die Cicadinen Japans II. Annot. zool. japon.,8:15-51.

谷口和義(1939) チャヒラタオホヨコバヒ本州に産す. 昆虫界7(66):485.

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

シロヘリクチプトカメムシの

兵庫県下の産地

高橋寿郎

シロヘリクチプトカメムシ *Andrallus spinidens* (Fabricius) は南方系のカメムシであるが、本州(山口県, 広島県, 岡山県, 兵庫県, 和歌山県など)や四国(高知県, 愛媛県)にも分布を拡げつつあり、最近では愛知県豊橋市での記録も見られる(月刊むしNo.298, p.22-23, 1995)。兵庫県での記録は新家 勝氏が西宮市枝川町の灯火に飛来したのを採集(11.VI.1990)発表されたのが一番古い記録である(きべりはむしVol.18, No.2, p.35-36, 1990)。

1991年矢野節夫・庄野美穂氏が加西市岸呂塩ノ山で1♂, 2♀, 幼虫多数を採集(11.IX.1990)報告された(中国昆虫, No.5, p.29, 1991)(この標本の♂♀は宝塚の昆虫I, p.144に写真をつけて示されている。1992)。

その後藤富正昭氏は三原郡三原町八木養宜から記録されている(*Parnassius*, No.42, p.2, 1995)。

したがって、現在の所本種は淡路島, 加西市, 西宮市で採集されていることになる。恐らく海岸線ぞいを調べたらもっと産地はあることと思われる。

未筆で恐縮だが、西宮市での新家 勝氏採集の標本は同氏の御厚意で目下筆者が保管している。

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)